

# 光受寺通信

NO.202

R7.11.1 発行  
発行元 光受寺



「人は転ぶと坂のせい 坂がないと石のせい 石がないとクツのせい 人はなかなか自分のせいにはしない」これは森繁久彌さんの言葉です。

この言葉に出会ったとき思わず笑ってしまいました。日常生活ではよくある自分の姿でもあると思うたのです。誰かのせいにしてない気が治(おさ)まらないこともあり、時には夫婦喧嘩にまで発展してしまつたことさえある厄介な思いなのです。

例えば食事の準備中に誰かが食器を割つたとします。それを見ていた家族の誰かが「あゝあゝ大事な食器を割つて」と言つて相手を攻めたりしますが、しかし、自分が割つた時にはどう言つたでしょうか。多分「おっと」「あっ、割れた」「割れちゃった」と無意識に言つてしまつたのではないでしょうか。食器がひとりでに割れるはずがないのですが。

仏教には「縁起」という考え方があります。「縁起」とは「因縁正起」という言葉を省略した言葉ですが、正起(結果)の背景には、その直接的な原因(因)と、直接的な原因に関わる間接的なものもその縁があるということです。時間であったり、場所であったり、天気であったり、気分であったり、その他もろもろの諸条件(縁)が重なり合つて正起となるのです。

自分は正しい。相手が間違つてゐるという安直な因果関係の捉え方は、時として争ひの原因にもなりかねません。互いに尊重し合える関係を「因縁」という言葉を通して育んでいきたいものです。

※種から花が咲くのは、種(因)だけでなく、土、水、光、人

による世話(縁)など、多くの条件が揃つて初めて実現します。



## 10年目標から感謝の世界へ

森 光明

私は平成7年に60歳を迎えました。今にして思い返すと、平成7年に設けた10年目標が、私の精神を立て替えるきっかけになったことがよく分かります。今日はその顛末を記述に、心の立て替えが思いがけないところに存在するものであることを紹介させていただきます。

当時、還暦を迎えるにあたって考えたことは、60歳を境に老後の生活に向かうのだから、それにふさわしい生き方をしなければということでした。いろいろ思いを巡らすことで考えたのは、「10年目標」でした。これまで取り組んできた実行目標は1か月とか、1年目標でしたが、これからはもっと大きな目標を掲げて10年単位で取り組もうとするものでした。こうして60代の目標は「自然観照」に決めました。これは日頃自然を観察する習慣があつたので、この際じっくり自然の様々を注視してこうというものでした。例えば家庭菜園に取り組み中で、日々思ふようになつたのは、陽光の照らす多大な恵みでした。今でこそ自然破綻に苦しみ日々ですが、本来は朝に現れ、夕日に沈む慈悲深い自然の恵みでした。その頃から畑に立つと自然の慈愛に合掌する習慣が身につくようになりました。こうした経験から「自然がもつ膨大な慈愛に目覚めることになりました」。

70代の10年目標は「一切他力」でした。自然観照の成果として、自然界のすべては、自然の力、自然の働きであるとの自覚が深まり、一切他力の視点に立つて10年を過ごしました。80代の10年目標は「敬虔(けいけん)感謝」でした。60代、70代を通して深く目覚めたことは、護られ生かされる身の有難さでした。毎夜床に就くときばらへ今日1日を振り返り、すべて護られ生かされる身を噛みしめ「敬虔感謝」の念を篤くもつひと時を過ごすようになりました。生活の中で区切りあることに護られる身を思い味わい、念仏と共に「敬虔感謝」を噛みしめる日々を送れるようになりました。こうして85歳頃になって深く気付くようになったことは体調がいよいよ元気となり精神状態も明朗清新を持続できるようになってきたことです。こうして心身の状態を健康に保ち、老化を意識することなく元気な日々を送ることができるようになりました。90代になった今日もおかげさまで健康そのものの日々を送っております。「敬虔感謝」は高齢期の心身を健康に保ち、最高の心情であると確信している次第です。



## 七年度 報恩講

十二月七日(日) 午前・午後

お斎あり



先月号でもご連絡申し上げましたように、本年の報恩講は市のマリン大会と日にちが重なり、**第二日曜から第一日曜に変更**となりました。

お念仏の教えを聴聞し、自らの生活を振り返る、一年で最も大切な仏事です。門徒の家族においても「お取り越し」という名称で勤められていますがお取り越しとは「報恩講」の別称です。親鸞聖人の「命日がめぐってくる前に取り越し勤めることからそう呼ばれているのです。

午前は寺族による法話、午後は教順寺住職の法話を予定しております。また、当日には「門信徒総会」も予定しておりますので、ぜひ多くの門徒の皆様にご参拝いただけますようお願い申し上げます。

おみがき…十二月一日(月)

皆様の協力をお願いいたします。

## 「お寺サロン」3周年記念。

ミニコンサート開催

光受寺

十一月二十日(木) 一時半～2時半

十一月には三年を迎える「お寺サロン」。気軽に参加していただける会として続けてまいりました。おかげさまで多くの方に参加いただけるようになりました。

ミニ法話

近藤龍議氏

廣専寺若院

エレクトーン演奏

柴間麻梨絵氏

光受寺若坊守



仏教讃歌はじめ、みんなで歌える懐かしい歌謡曲まで幅広く演奏する予定です。～お待ちしています～

## 今月の掲示板

美しい景色を探すな  
景色の中に美しいものを  
探すのだ。

ゴッホ

あなたの求めているものは、どんなに遠くへ行っても見つけ出すことはありません。それが美しい景色であっても幸せであっても同じです。それは特別なところにあるのではなく、あなたのそばにあるはず。



犀川提

## 学習会のご報告

十月十八日(土) 午後2時～3時半

この日は「歎異抄」第14章 についての学びでした。

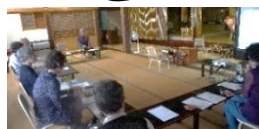
この章における**歎異**(異なることを嘆く)は「南無阿彌陀仏」と一声念仏することによって、八十億劫という果てしない時間に私が犯してきた罪を一気に消滅させることができる信じなさい、という**異論**についてでした。

紙面の関係で詳しくは説明できませんが、念仏を称えて罪を消そうと考えるのは、**自力**の発想であり、**他力**を説く親鸞聖人の教えとは異なるということです。聖人の同じ教えを聴いた人の中でも、受け止め方によって、大きな差異を生んでしまっていたということなのでしょう。

さて私たちの称える**念仏**とはいったいどういうものなのか。またそれによって**救われる**とはどういうことなのか。そんなことを考える会となりました。ご参加くださった皆様に「お念仏はどんな時に称えますか?」とお尋ねしたところ、感謝の思いが湧き起った時、お寺や仏事の縁あった時、苦しみ悩み事があつた時等いろいろと聞かせてくださいました。

本会は単なる知識を身に着ける学習の場ではありません。自分の生き方が、これでよいのかと仏様の教えと願いを聞いていく歩みの場となっています。

ともに悩み、苦しみながら、仏さまから明るい眼をいただいて意義ある人生を歩んでいくことが大切です。



皆様にもぜひお気軽にご参加いただきたいと願っているのです。

今月の開催は十一月十五日(土)2時からのご予定となっております。